

W. Co運動の未来のあるべき姿をみんなで考えよう！

10月28日、通常総会終了後、60人ほどの大勢の参加で、NPOワーカーズ・コレクティブ協会の一色節子さんによる基調講演と首都圏連合会で活躍する配送W. Coの皆さんによるパネルディスカッションが行われました。業務受託事業の現状を共有し、W. Coという働き方の未来について参加者全員で考えました。

一色節子さん

基調講演

設立趣意書に戻って、自分の立ち位置を確認

一色節子さんは、社会的な人手不足という背景をきっかけに、生活クラブが従来の職員と組合員による労働に新しい働き方としてワーカーズ労働を加えるようになった時に生活クラブ神奈川の野菜を配達する配送ワーカーズ「W. Coキャリアー」を立ち上げた方です。

「物流」というのは、いろいろなものをつなげる力があります。物と情報を運び、地域の物流とコミュニケーションを促進する「コミュニティ配達業」を目指し、数多くの事業に挑戦されてきました。野菜の配達だけでなく人も運びたいという思いから、ケアセンターあさひのお出かけサービスを事業化し、後に、「移送サービスワコレ・キャリアージュイ」として独立させています。

野菜の配達がなくなり、牛乳配達を受託した時にはコミュニティ配達業を生活クラブ員以外の人にも拡げていこうと、その当時10数回の説明会を開いてワーカーズを増やしてきました。

仕事ができなくなったからとやめるのも格好が悪い寂しいので、次々といろいろな事業（物を運ぶ、小さい引越越し、お取り寄せ……）をやっていると、淡々と明るくおおらかに話す一色さんに、私は圧倒されっぱなしでした。いろいろなことにぶつかっていくあのパワーが、一色さんのどこに隠れているのか知りたくなりました。

一色さんが話されたことで一番印象に残っていることは
・事業は継続しなければならない
・委託のワーカーズといっても安定ではなく、きちんと仕事をしなければ 仕事は無くなる。生活クラブの組合員だからといって甘えてはいけません。そして特に、なぜワーカーズ・コレクティブなのか、どこに軸足を置いて、何をしようとしているのか、自分の立ち位置を常に確認しなければならないと言われたことです。
今日一緒にお話を聞いた仲間と話し合い、考え、他のワーカーズに伝えていかねば、と思いました。

(企) かい 西原洋子

ワーカーズ・コレクティブキャリアーの設立趣意書

私達は雇うのでもなく雇われるのでもない「皆で協同して働く」という新しい領域を地域に拡げていきたいと考えています。(中略)私達はワーカーズ・コレクティブを通じて協同して働く仲間を増やし、生き方・働き方を問い直していきたいと思えます。(中略)私達は地域の運送業として物と情報を運び、将来的にはこれらグループの点を結ぶことによって、地域の物流とコミュニケーションを促進し、生活者による街づくりや地域の活性化に積極的に寄与していきたいと考えます。

パネルディスカッション

物も運動も運ぶワーカーズ・コレクティブとして

後藤成美さん…ワーカーズ・コレクティブSOU(走)代表
埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会会長
埼玉での配達業務は「まとめ下ろし」という組合員活動から始まった。その後、生活クラブから1センター1つのワーカーズ・コレクティブ(以下W. Co)委託という方針が出され、「組合員をつなげていきたい。物を配達するだけでなく、運動も運んでいくのだ」という思いを設立趣意書に掲げ、2002年、ワーカーズ・コレクティブSOU(走)を立ち上げた。事業高は3800万円。2009年度は大宮ブロックの事業高の約40%をW. Coが請け負う。牛乳コース10コース/週、鶏卵コース27コース/週を受託。帳票のセット、クレーム対応、入力など配達業務に係わる仕事はすべて委託業務の中に入っている。

現在埼玉県内で事業をしている6つの配送W. Coで連絡会を作り、安全推進、共済推進、拡大リーダー、消費材研修などの部会を持ち、月1回の会議を開きながら情報の共有を図ったり、研修、業務の進め方や交渉等の窓口として活動している。生活クラブの運動を知らないメンバーに協同することの意味や、組合員と話すことの大切さも伝えている。10数人から47人とそれぞれW. Coには人数差があるが、20代から60代までの老若男女で運営。特に子育て中のメンバーに対しては様々なハブニングに対応できるシステムを作ったり、夏休みを考慮したりと働き続けることの応援をし、その人たちが次の世代を育てていくことに期待を寄せている。また、年齢の高い人に対しては、その人のできるコースにすることや、早く帰りたい人、他の事業所との掛け持ちなど、まさに多様な働き方で運営されている。

生活クラブからは、6W. Coの一本化の方針が出ているが、それぞれに規模や歴史の違い、地域間格差など超えなければならないハードルがいくつもあり、難しい状況である。しかし、どのセンターでも組合員に対して同じレベルのサービスを提供するという視点に立つての情報の共有化は「SOU(走)」の共通項である。また、法人格を取得することも課題である。

受託事業は契約の話し合いが最重要

浜 たづ子さん…企業組合わーかーずあい代表理事
消費委員長、農産物委員長、理事などを経て、(企)ワーカーズ・コレクティブかいに加入。(株)手賀沼せつけんでの製造補助。流山で廃油回収など「せつけん街」の共有者の会を通して様々な市民活動に関わる。そうした市民活動を、夫の収入を当てにしないで自分の働いたお金でしたかった。自分が学校を卒業した頃は女性の雇用は少なく、子どもたちにはそうした思いはさせたくないということが始まりである。

1993年東葛エリアでケアをしながら宅配をする事業を目標に始め、1994年生活クラブの個別配送を受託。自家用車での配送では事故の 場合個人対個人の問題になるので、2004年法人格をとる。配送事業免許を取得し、柏センターでの配達業務と牛乳便の受託、センター総務、用紙組みなど事務の受託と独自事業の「すまい」部門を運営。業務を受託するに当たっては、生活クラブとの年一度の契約についての会議が最重要である。課題に立ち戻ることができる。

今年度からブロックの経営会議に参加して、拡大、共済ともに年間の目標はクリアした。メンバー全員が参加し合意する会議を月1回開催。誰でも提案書を出すことができるし、必要に応じてプロジェクトを立ち上げることもできる。しかし声の大きい人、強い意見が通りやすく、また、多数決の原理には馴染まないこともある。たとえば、扶養を外れて働く人の社会保険加入は、なかなか合意が得られない問題になっている。多数決で決定すると、法的には指定業者ではあるが、組織としては、時期尚早という結論に達する。今は少数意見であっても将来を見据えた意見などが受け入れられるように、合意の取り方は今後の課題である。

組織として次世代を育てることも大きな課題だが、非常に難しい。継続するだけでも立派だと思える現実が多々ある。若者は出資金のこと言っただけで引いてしまい、最後に残るは生活クラブ関係の人ということもある。連合会には情報交換の場を期待している。そのことで、自分の置かれている立場を認識することができるはず。

組合員と職員とW. Coが同じ方向に向かって！

庄 妙子さん…生活クラブ生協・千葉専務理事
W. Co千葉県連合会監事

27年前、生活クラブがW. Coと個人班を作るという方針を出した時は、「W. Coはパート?」「何で個人が班なの?」とんでもないという認識だったが、担当することになり徹底的に勉強。必死になって草創期から東京でワーカーズ・コレクティブ運動に携わり、20~30のW. Coを作ってきた。愛知でも3つのW. Coと連合会の設立に寄与。専業主婦の共同購入運動から、社会の構成員として社会に発言していく代理人運動とW. Co運動は、生活クラブの「第二の時代の幕開け」であった。



パネラーの皆さん。左から後藤、浜、庄さん。

千葉では現在3つのW. Coが生活クラブからの委託事業を行っている。第8次中期計画ではワーカーズ・コレクティブ運動強化方針のもと、センター1W. Coを作っていくこと、デポのW. Co化の推進が決められている。組合員が生活クラブの活動の中で学んだことを生かし、次のステージで花開かせることを支援し、組合員を送り出す先を支援したい。そのためにマーケットの提供をしている。生活クラブのメリットは、生協の運動を進める上で、職員、組合員、W. Coという異質な主体が同じ方向に向かって、違いを生かして活動することにより、ダイナミズムが発生、掛け算の世界が広がりが社会に発言力を強めていくことにある。

職員には先輩として業務の指導をするように言っている。生活クラブの仕事に携わるといことは、職員もW. Coも同じ側面を持っているが、組合員が組合員に届けるという強みは職員には絶対ない。職員は何を強みにしたら良いのか、組合員に鮮明に打ち出していくことが要求される。

新政権は103万円、130万円の壁を取り払っていく方針である。どちらか1人が家計を支えるのではなく、夫婦2人の収入を合わせて自分たちの生活を実現する。そういう社会モデルを創っていく働き方をワーカーズ・コレクティブ千葉県連合会としてはアピールしてほしい。経済不況の中で女性の就業希望が増え、保育園への待機者が激増しているにもかかわらず、W. Coへの参加希望者は少ない。「この時代を切り開いていくには、こんなことがあるよ」というアナウンスがされていない。未来に向かって道を切り開いていく水先案内人の役をしていくことを期待している。一人では無理でも他の団体と連携することで道は開かれるはず。

新しいデポー建設を計画しているが、それは単独ではなく社会福祉法人生活クラブ、VAIC-CCIやW. Coなど様々な団体が連帯して、新しい方式でできる新しいコミュニティを示していきたい。新しいデポー建設に向かって、新しいモデルW. Coができることを期待したい。

「新しいことを始める時は、変えるチャンス。新しい人がたくさん入ってきて、違う風が入ってきて、今までW. Coをやってきた人にもその風は刺激になるはず。組合員が創るW. Coから、新しい運動が次々と始まる」という一色さんの元気な声が今でも耳に響いている。「今日の研修が千葉のW. Coの再出発の日になってほしい」。コーディネーターの柴山さんの最後の言葉は、W. Coだけではなく生活クラブ千葉グループみんなの願いのはず。

(企) 回 転 木 馬 西 山 美 代 子